

アドイン入在庫検品 TypeB プログラム
for アシストパック Pro BHT-1500
取扱説明書 第1版



2018年 5月 1日
コンピュータ・アシスト株式会社



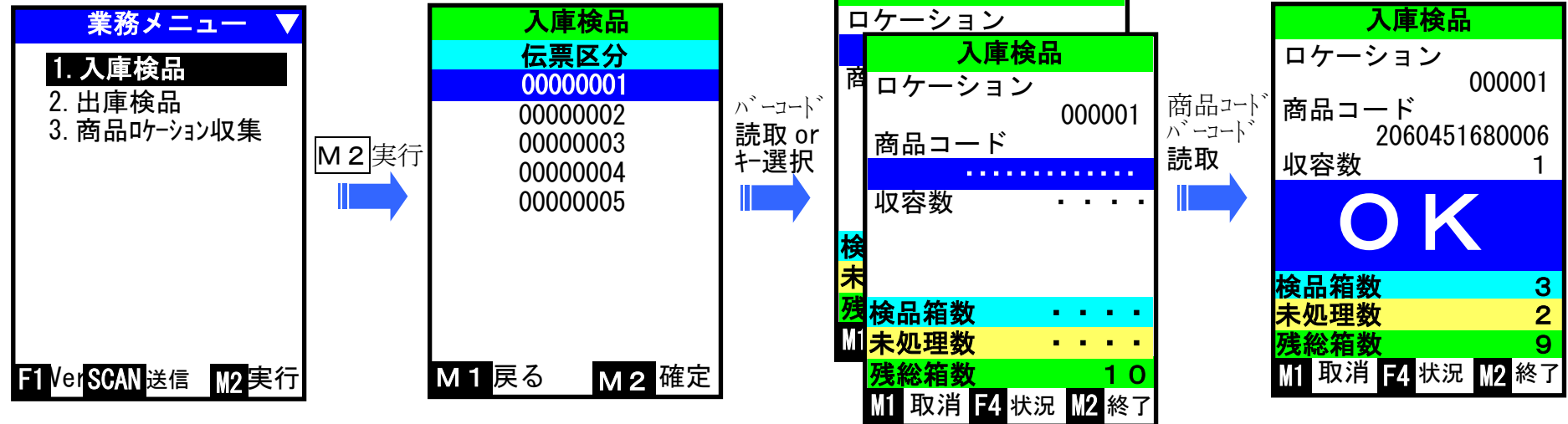
目次

1 プログラム概要	1
2 プログラムのインストール	2
2-1 アドイン入出庫検品プログラムダウンロード	2
2-2 入出庫検品プログラムの動作設定	4
1) 動作モード	5
2) データ区分	7
3) 伝票区分	14
4) 入庫／出庫情報	15
5) 入庫検品／出庫検品処理画面	17
6) 処理結果	19
7) 設定更新	21
2-3 業務設更新	22
3 アドイン入出庫検品プログラム実行	23
3-1 入庫検品モード	23
3-2 出庫検品モード	26
3-3 入力／データ処理エラー表示	29
3-4 保存データ送信	30
3-5 マスターファイル受信	30

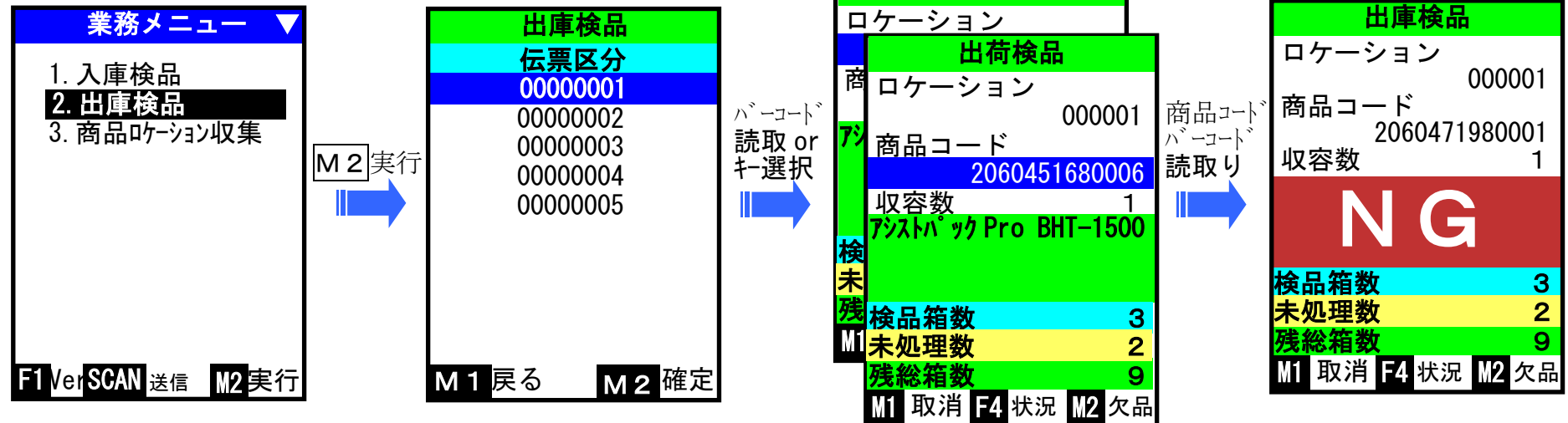
1 プログラム概要

アシストパック Pro BHT-1500 のアドイン業務プログラムとして動作する入庫検品／出庫検品プログラムです。
入庫／出庫の情報ファイルを受信し、入庫検品／出庫検品の処理を行います。

□ 入庫検品モー



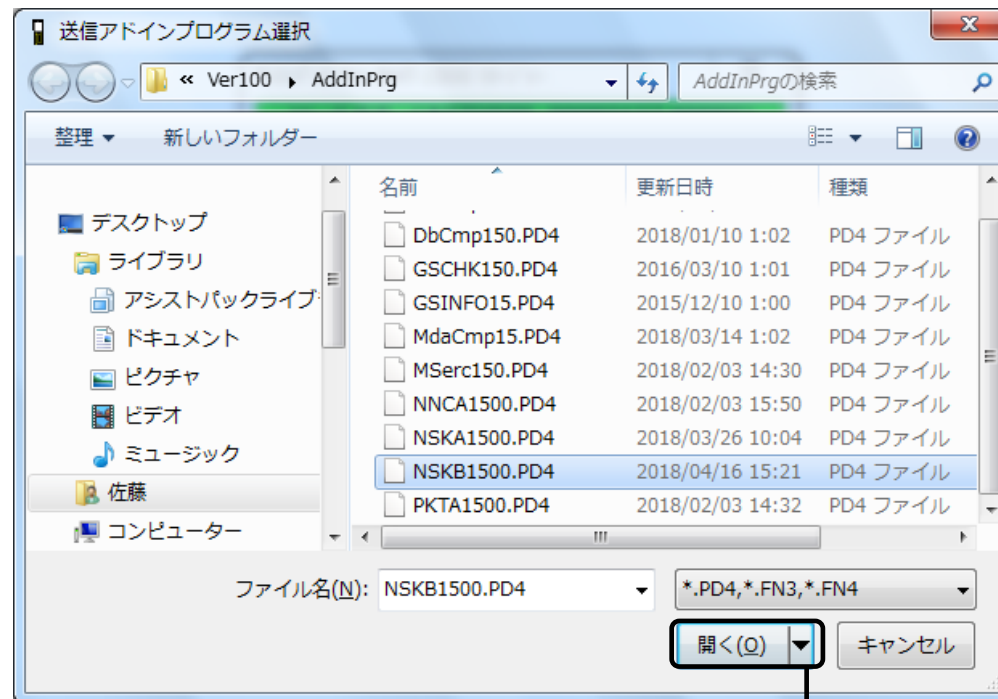
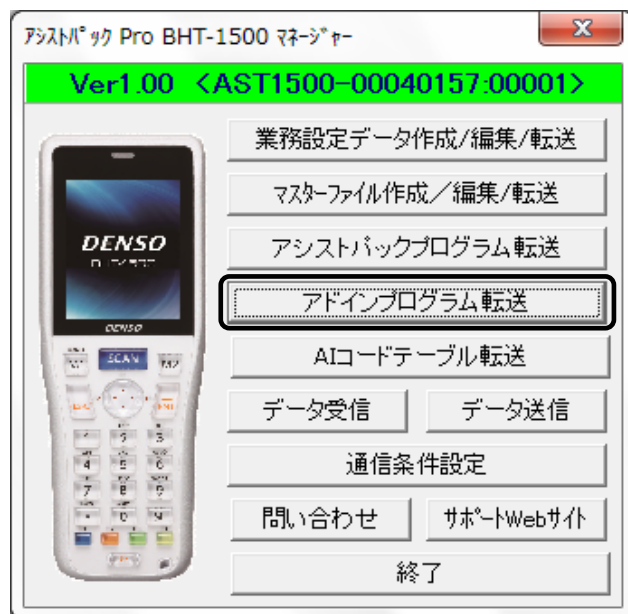
□ 出庫検品



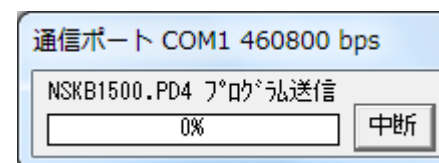
2 プログラムのインストール

2-1 アドイン入庫検品プログラムダウンロード

アドイン入庫検品プログラム「NSKB1500.PD4」をBHT-1500にダウンロードします。



NSKB1500.PD4 を
選択してクリック



サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
- 9. ファイル受信**
10. リモート受信

M1 戻る **M2** 実行

M2 実行



ファイル受信

通信ポート選択

- 1. CU-USB (460.8K)**
2. Bluetooth

内部メモリへ受信

M1 戻る **F4** SDメモリ **M2** 選択

M2 選択



ファイル受信

通信ユニットに
セットしてください

内部メモリへ受信

M1 戻る CU-USB



通信ユニット
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

NSKB1500.PD4 送信中

50%

中断



プログラム転送

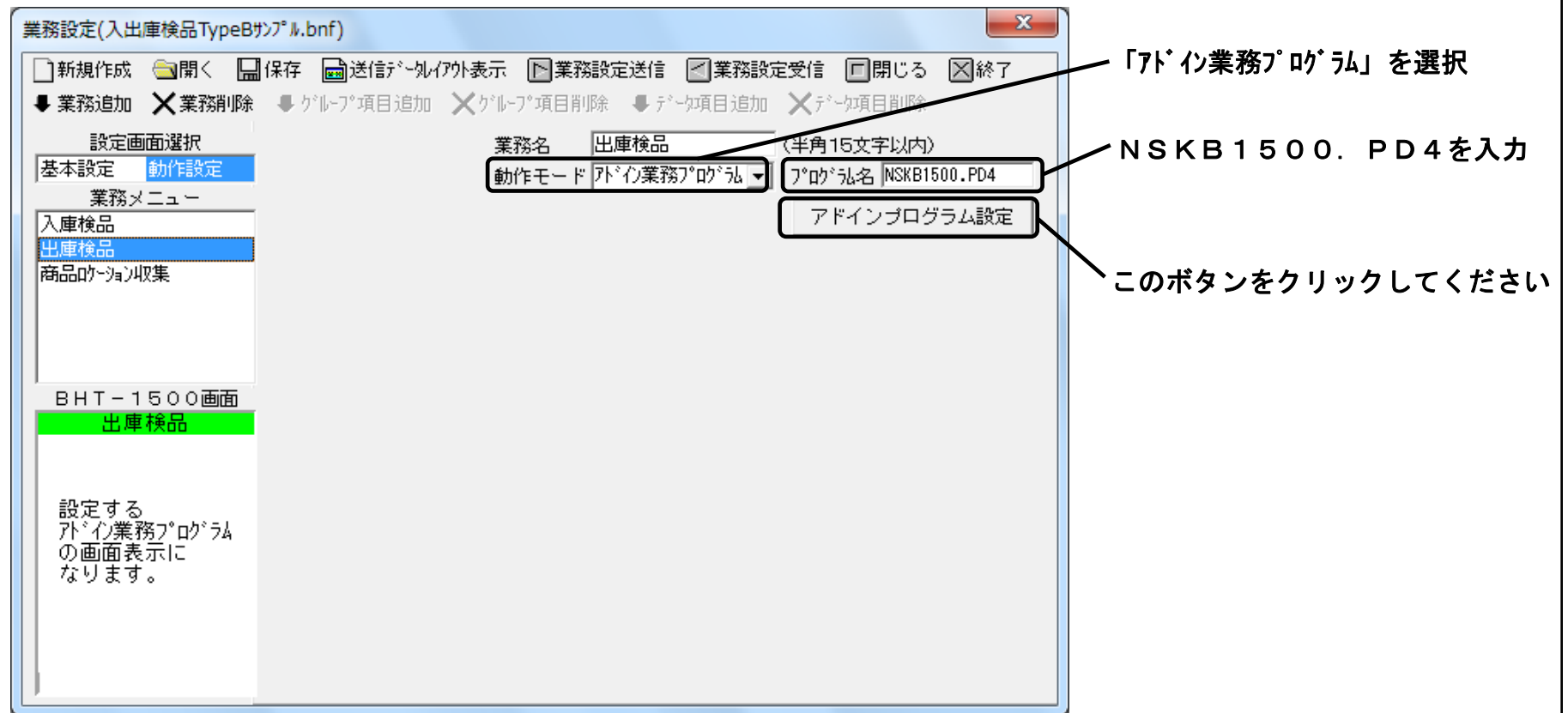
i 正常終了

OK



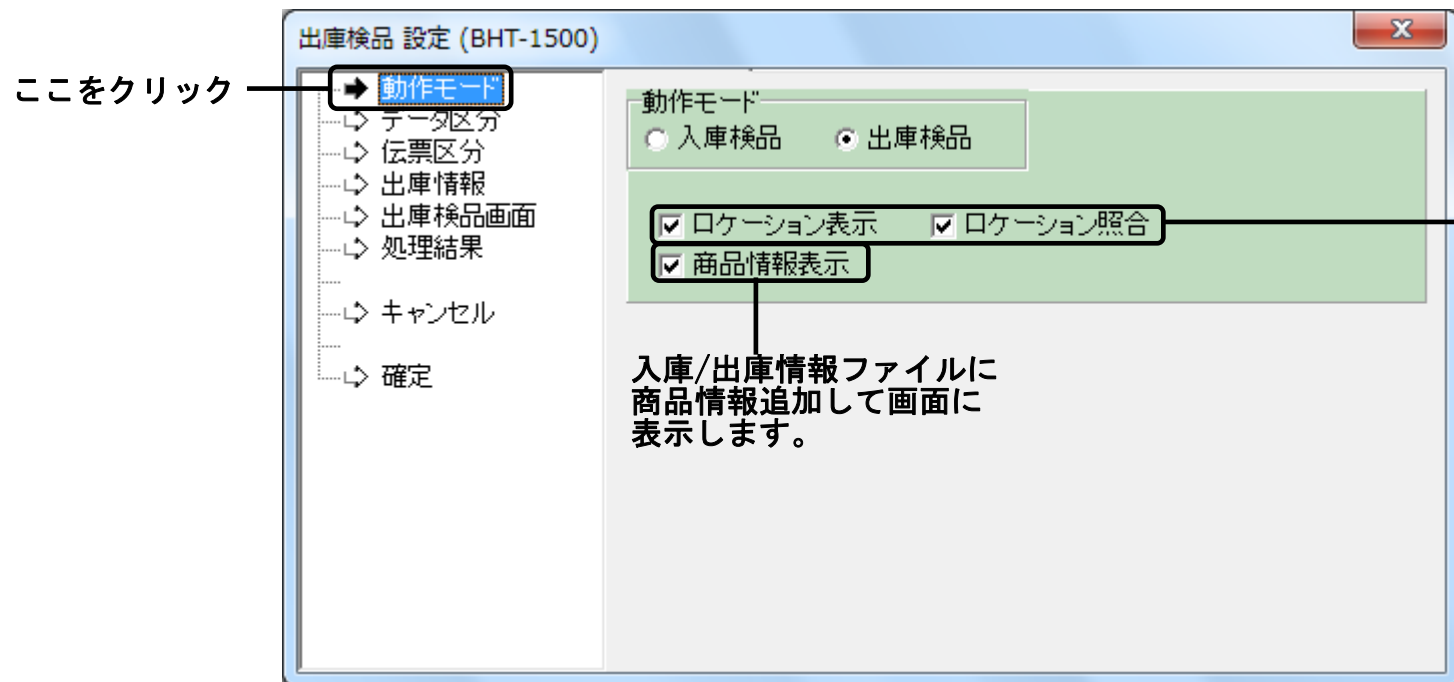
2-2 入出庫検品プログラムの動作設定

業務設定において、動作モードに「アドイン業務プログラム」を選択し、プログラム名に「NSKB1500.PD4」を設定して「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしてください。



1) 動作モード

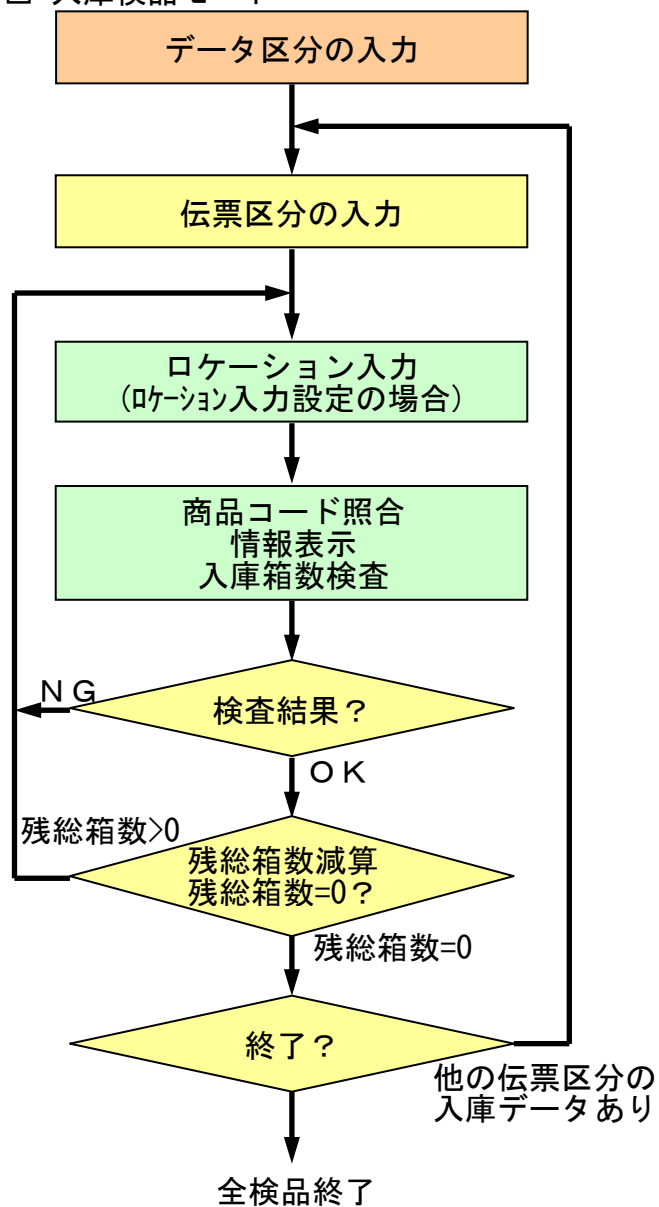
入庫検品モードまたは出庫検品モードを設定します。



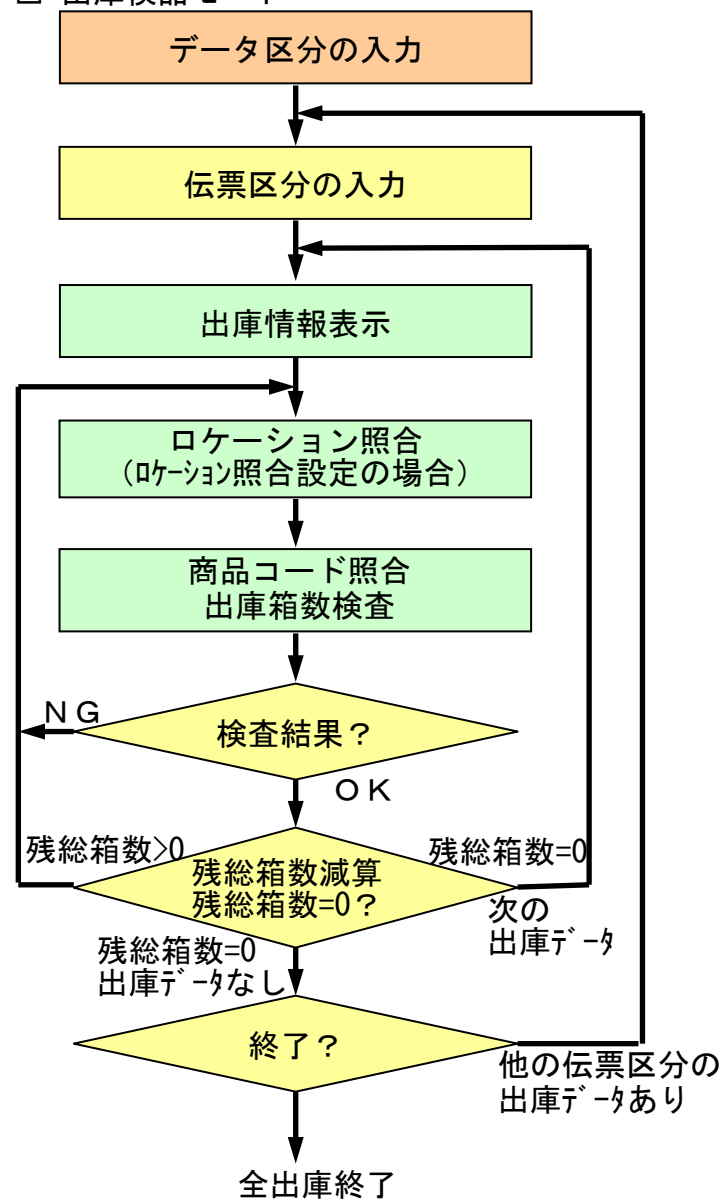
動作モード	説明
入庫検品	入庫情報を受信して、ロケーション、商品コード、数量を入力し、入庫情報と照合して結果表示、保存します。
出庫検品	出庫情報を受信して、画面に表示する情報（ロケーション、商品コード、数量）に従って商品を収集し、商品コードと数量を照合して結果表示、保存します。

■ 操作手順

□ 入庫検品モード



□ 出庫検品モード



2) データ区分

担当者コードなどのデータ区分を使用する場合は、「データ区分」をクリックして「データ区分を使用する」をチェックしてください。

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列, 数字(0 詰め表示), 数字(0 7桁表示), 日付(YYYY/MM/DD), 日付(YY/MM/DD), 日付(MM/DD), 時刻(HH:MM)から選択します。
データ表示	入力データの標準表示, 横倍表示を設定します。
入力桁数	データ形式が文字列, 数字(0 詰め表示), 数字(0 7桁表示)のデータ入力桁数を、最大, 最小で制限します。
バーコード	「バーコード使用」をチェックして、「バーコード読取設定」ボタンをクリックするとバーコード読取設定画面を表示します。
情報表示マスター	「情報表示マスターファイルを使用する」をチェックして、情報マスターファイルを設定してください。 「マスターデータがない場合エラー」を設定すると、入力したデータがマスターファイルに登録されていないとエラーになります。

● バーコード読取設定

担当者 バーコード読取設定 (BHT-1500)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ なし ☐ あり ☐ STF ☐ なし ☐ あり

☐ NW7 ☐ なし ☐ あり ☐ Code39 ☐ なし ☐ あり

☒ Code93 ☒ GS-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☐ ユーザー定義

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット 固定長

☐ データチェックを使用する

入力データ選択 1桁目から 6桁

☒ 指定文字を削除する 削除する文字

キャンセル 確定

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
G T I N 変換	「JAN/EAN/UPC を GTIN コードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTIN コードに変換します。
チェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	データ区分の場合は固定長になります。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
入力データ選択	G T I N 変換、チェックデジットをデータに含めない処理をしたバーコードデータからデータ区分の項目データにするデータを選択します。
指定文字左記所	指定した半角文字を削除してデータ区分の項目データにします。3文字まで指定できます。

「1桁目から6桁」と設定した場合は、読み取ったバーコードデータの「1桁目から6桁」がデータ区分のデータになります。

「99桁目から6桁」と設定した場合は、
「末尾から6桁」がデータ区分のデータになります。

○ 読取バーコード

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
書籍コード	先頭97のJAN-13と先頭19のJAN-13の2段バーコード読取 読み取ったデータは、26桁のデータになります。 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
雑誌コード	先頭49のJAN-13+アドオンコード5桁の合計18桁のデータ 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
ITF	チェックデジット(モジュラス10)の設定可能
STF	チェックデジット(モジュラス10)の設定可能
NW7	チェックデジット(モジュラス16)の設定可能
Code39	チェックデジット(モジュラス43)の設定可能 数字(0~9), 英字(A~Z), 6種類の記号とスペース
Code93	数字(0~9), 英字(A~Z), 6種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字(0~9), 英字(A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクスパンデッド, エクスパンデッドスタック
ユーザー定義	ユーザー独自に読取設定をする場合に使用します。 ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>,, <第20読み取りコード> 不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。



□ Codabar (NW7)

書式: N[: [最小桁数 [-最大桁数]] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 39

書式: M[: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 93

書式: L[: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



□ GS1-128, EAN-128, Code 128

書式: K[: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ スタンダード2of5 (STF)

書式: H[: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD] [スタート ストップ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。Nを指定すると標準、Sを指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

□ GS1 DataBar (RSS)

書式: R[コード: [最小桁数 [-最大桁数]] [Stacked]]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	GS1 DataBar コードタイプ
S	GS1 DataBar Omnidirectional, GS1 DataBar Truncated, Stacked, GS1 DataBar Stacked Omnidirectional)
L	GS1 DataBar Limited
E	GS1 DataBar Expanded

コードを省略すると、上のGS1 DataBar コードののどれでも読むことができます。



最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。1～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**は、コード指定がEの場合に有効です。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、1桁からバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

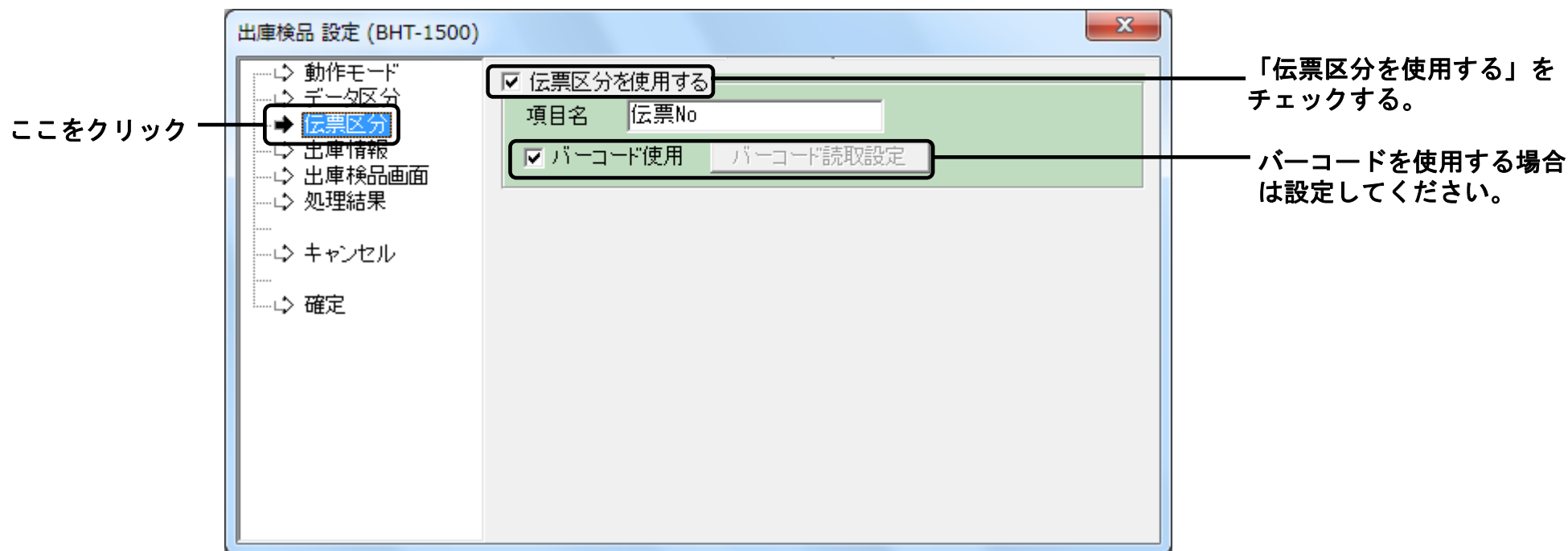
Stackedは、**Stackedタイプの読み取り指定**です。Sを指定すると、**Stackedタイプの読み取りも可能**とまります。**Stacked**は、コード指定がEとSの場合に有効です。

GS1 DataBar ExpandedとGS1 DataBar Expanded Stackedについて、FNC1 キャラクタは、GS キャラクタ (1Dh) に変換しバーコードバッファに転送されます。



3) 伝票区分

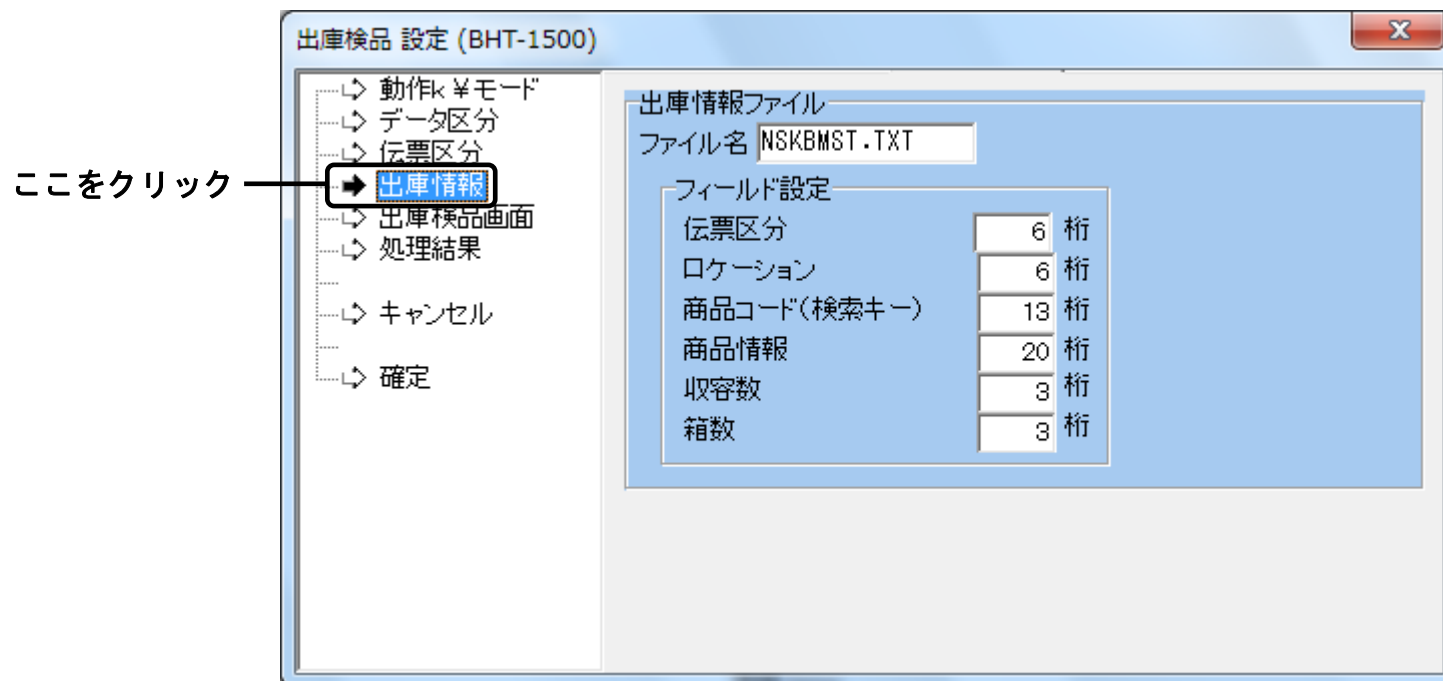
入庫 No, 出庫 No, 伝票 No などの伝票区分を使用する場合は、「伝票区分」をクリックして「伝票区分を使用する」をチェックしてください。複数の伝票の入庫／出庫情報を受信して、指定した伝票区分の入庫検品／出庫検品の処理を行います。



設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
バーコード読取設定	「バーコード使用」をチェックして、「バーコード読取設定」ボタンをクリックするとバーコード読取設定画面を表示します。 「●バーコード読取設定」を参照してください。

4) 入庫／出庫情報

「入庫／出庫情報」をクリックして、入庫／出庫情報のファイル名とフィールドを設定してください。



設定項目	説明
ファイル名	入庫／出庫の情報ファイル名を設定します。 (半角英数字 12文字)
伝票区分	伝票区分を使用する場合に設定します。 伝票区分のデータ桁数を設定します。(1～20桁)
ロケーション	出庫検品において「ロケーション表示」を設定した場合に設定 します。(1～20桁)
商品コード(検索キー)	商品コードのデータ桁数を設定します。(1～20桁)
商品情報	商品情報を表示するデータ桁数を設定します。(1～120桁)
収容数	箱に収容した商品数のデータ桁数を設定します。(1～8桁)
箱数	入出庫箱数のデータ桁数を設定します。

■ 入庫／出庫情報ファイル

出庫情報ファイル
ファイル名

フィールド設定

伝票区分	6	桁
ロケーション	6	桁
商品コード(検索キー)	13	桁
商品情報	20	桁
収容数	3	桁
箱数	3	桁

出荷検品の「ロケーション表示」を設定した場合のみ表示します。
「ロケーション照合」の場合は、ロケーション入力桁数になります。

上記の設定の場合は、次のようにファイルを作成します。

□ NSKMST.TXTファイル

伝票区分：6桁 ロケーション：6桁 商品コード：13桁 商品情報：20桁 収容数：3桁 箱数：3桁

伝票区分	ロケーション	商品コード	商品情報	収容数	箱数
000000	1000000	1208000	10000010	アシストパック Pro	BHT-800001001
000000	1000000	2208250	10000010	BHT-805BW	010001
000000	1000000	9208250	10000010	CU-821	001001

□ NSKMST.FLDのフィールド定義ファイル

6, 6, 13, 20, 3, 3

5) 入庫検品／出庫検品処理画面

商品コードのバーコード読取設定と箱数入力設定をします。数量入力の場合は、入力した箱数が残数以下なら残数から減算します。箱数入力しない場合は、バーコードを読取る度に箱数1として処理して、残数から1減算します。

ここをクリック →

入庫検品モードにおいて「ロケーション入力」を設定した場合と出庫検品において「ロケーション照合」を設定した場合に表示します。

検品した箱数/商品数と未処理の箱数/商品数を表示します。

検品状況表示を箱数で表示するか、商品数で表示するか選択します。

入出庫検品の残り総箱数/残り総商品数を表示します。

入庫検品/出庫検品のOK NGブザーを設定します。

設定項目	説明
ロケーション入力設定	ロケーションの入力桁数とバーコード読取設定をします。 「●バーコード読取設定」を参照してください。
商品コード入力設定	〔バーコード読取設定〕ボタンをクリックして商品コードのバーコード読取を設定します。 「●バーコード読取設定」を参照してください。
箱数入力	箱数入力を設定すると箱数入力項目を表示します。
検品状況表示	検品状況を検品数、未処理数、残総数で表示します。
OK／MG表示時間	OK／MGを表示する時間を、1／10秒単位で0～99の数値を設定します。0を設定した場合は、表示しません。99を設定した場合は、どれかキーを押すまで表示し続けます。

●OK／NGブザー設定

設定項目	説明
周波数	0=低音 1=中音 2=高音 62～5000Hz 3～61 の値は設定できません。 0, 1, 2 を設定した場合、「LCD コントラスト/ブザー/バイブレータの調整画面」でブザー音量を変更 することができます。 62～5000Hz を設定するとブザーの音量は最大となり、変更することができません。
鳴動回数	0～99 0 を設定するとブザーは鳴りません。
鳴動時間	1～99 1/10 秒単位で設定
休止時間	1～99 1/10 秒単位で設定
動作デバイス	ブザー, バイブレータ, ブザー+バイブレータから選択

6) 処理結果

「処理結果」をクリックして「処理結果を保存する」をチェックすると、入庫検品／出庫検品の処理結果を保存します。

ここをクリック →

「処理結果を保存する」をチェック

フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長(バイト)
1	伝票区分	6
2	ロケーション	6
3	商品コード	13
4	収容数	3
5	箱数	3
6	出庫商品数	6
7	欠品商品数	6

設定項目	説明
ファイル名	処理保存して送信するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 <大文字半角英数字 1～8 文字> . <拡張子 (大文字半角英数字 1～3 文字)> (拡張子に PD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMP を使用しないでください。)
フィールド数	保存するデータのフィールド数を最大 10 フィールドまで設定します。
フィールド設定	HtNo, データ区分, 伝票区分, ロケーション, 商品コード, 商品情報, 予定数, 入庫/出庫数, 欠品数, 日付, 時刻から設定します。

■ フィールド設定

処理結果保存ファイルのフィールド構成を、H t N o、データ区分、伝票区分、ロケーション、商品コード、商品情報、収容数、箱数、予定商品数、入在庫商品数、欠品商品数、日付、時刻から設定します。

フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長(バイト)
1	伝票区分	6
2	ロケーション	6
3	商品コード	13
4	収容数	3
5	箱数	3
6	出庫商品数	6
7	欠品商品数	6

フィールドデータ	説明
H t N o	登録されている4桁のH t N o
データ区分	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
伝票区分	伝票区分を設定した場合のみ設定できます。
ロケーション	入庫検品のロケーション入力または出庫検品のロケーション表示の場合に設定できます。
商品コード	入庫検品／出庫検品の処理をした商品コード
収容数	箱に収容された商品数
箱数	入出庫検品の予定箱数
予定商品数	入出庫検品の予定商品数
入出庫商品数	処理した入出庫商品数
欠品商品数	欠品処理した商品数
日付 A (YYYY/MM/DD)	システム日付をYYYY/MM/DD (10桁)の形式で保存します。
日付 B (YY/MM/DD)	システム日付をYY/MM/DD (8桁)の形式で保存します。
日付 C (MM/DD)	システム日付をMM/DD (5桁)の形式で保存します。
日付 D (YYYYMMDD)	システム日付をYYYYMMDD (8桁)の形式で保存します。
日付 E (YYMMDD)	システム日付をYYMMDD (6桁)の形式で保存します。
日付 F (MMDD)	システム日付をMMDD (5桁)の形式で保存します。
時刻 A (HH:MM:SS)	システム時刻をHH:MM:SS (8桁)の形式で保存します。
時刻 B (HHMMSS)	システム時刻をHHMMSS (6桁)の形式で保存します。

7) 設定更新

「確定」をクリックすると設定データを確定して更新します。設定は業務設定データに保存します。

出庫検品 設定 (BHT-1500)

→ 動作モード
→ データ区分
→ 伝票区分
→ 出庫情報
→ 出庫検品画面
→ 処理結果
→ キャンセル

ここをクリック → **確定**

☒ 処理結果を保存する
ファイル名 B.TXT 0 フィールド数 7

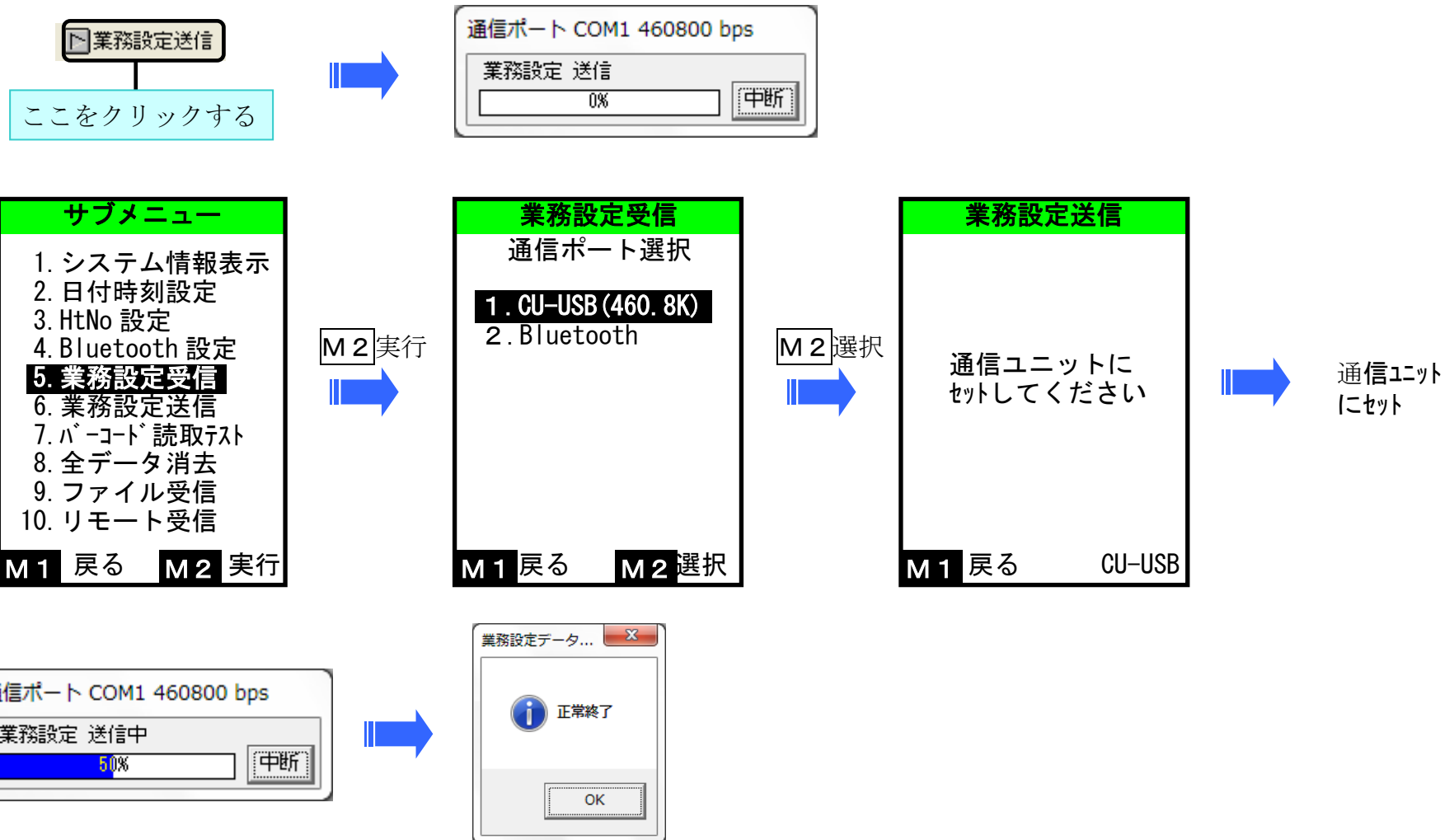
フィールドNo	フィールドデータ	フィールド長(バイト)
1	伝票区分	6
2	ロケーション	6
3	商品コード	13
4	収容数	3
5	箱数	3
6	出庫商品数	6
7	欠品商品数	6

設定データを取取消す場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

2-3 業務設更新

アドイン入在庫検品を設定した業務設定に更新します。

新規作成 開く 保存 送信データ一覧表示 **業務設定送信** 業務設定受信 閉じる 終了



■入庫検品処理画面

入庫検品	
ロケーション
商品コード
収容数	...
検品箱数	...
未処理数	...
残総箱数	10
M1 取消	F4 状況 M2 終了



入庫検品	
ロケーション	000001
商品コード
収容数	...
検品箱数	...
未処理数	...
残総箱数	10
M1 取消	F4 状況 M2 終了

商品のバーコードを読み取り、入庫情報と照合して検品します。
処理数は、数量入力の場合は入力数を、数量入力しない場合は数量を1とします。
この処理を繰り返します。
残総数が0になると、終了画面を表示します。

検品数： 検品済み数
未処理数： 表示商品の残り検品数
残総数： 残り検品の総数
M1： 検品処理を取り消して前画面に戻ります。
M2： 未処理数を欠品にして検品を終了します。
F4： 現在の処理状況を表示します。

OK



NG



F4キー



入庫検品	
ロケーション	000001
商品コード	2060451680006
収容数	1
OK	
検品箱数	3
未処理数	2
残総箱数	9
M1 取消	F4 状況 M2 終了

入庫検品	
ロケーション	000001
商品コード	2060471980001
収容数	1
NG	
検品箱数	...
未処理数	...
残総箱数	10
M1 取消	F4 状況 M2 終了

処理状況表示	
ロケーション	000001
商品コード	2060451680006
収容数	1
アシストバック Pro BHT-1500	
検品箱数	3
未処理数	2
残総箱数	10
M1 戻る	前: ▲ 次: ▼

検品数： 検品済み数
未処理数： 残り検品数

▲： 前のデータを表示します
▼： 次のデータを表示します
M1： 入庫検品処理画面に戻ります

M2による中断終了

入庫検品
伝票 No 00000001
未処理データが あります
未処理データを 欠品にして 終了しますか？
M1 戻る M2 終了

M2 終了



入庫検品終了

入庫検品
伝票 No 00000001
検品処理を 終了しました
次の検品処理 をしますか？
M1 終了 N2 次の検品処理

M2



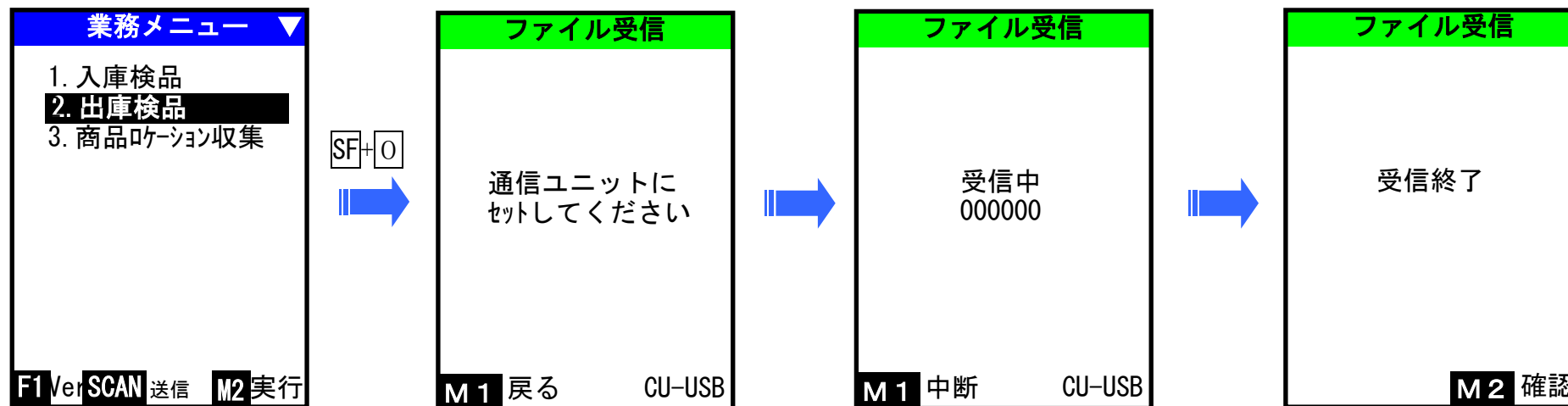
入庫検品
伝票区分 00000002
00000003
00000004
00000005
M1 戻る M2 確定

M1 : 検品処理画面に戻ります
M2 : 未処理データを欠品にして終了します。

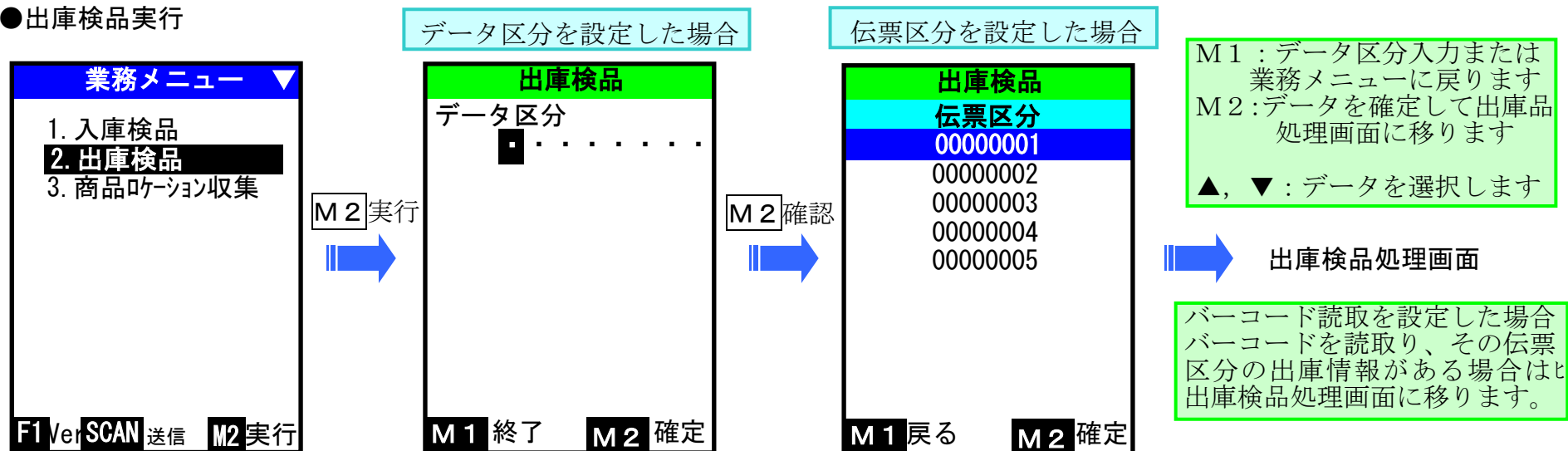
M1 : 業務メニューに戻ります
M2 : 次の検品処理情報選択画面へ

3-2 出庫検品モード

●出庫情報ファイル受信



●出庫検品実行



■ 出庫検品処理画面

出荷検品	
ロケーション	000001
商品コード	2060451680006
收容数	
アシストパック Pro BHT-1500	
検品箱数	3
未処理数	2
残総箱数	9
M1 取消	F4 状況 M2 欠品



出荷検品	
ロケーション	000001
商品コード	2060451680006
收容数	1
アシストパック Pro BHT-1500	
検品箱数	3
未処理数	2
残総箱数	9
M1 取消	F4 状況 M2 欠品

出庫情報に登録されている順に表示される商品コードと読取ったバーコードを照合して出庫検品を行ないます。出庫検品処理数は、数量入力の場合は入力数を、数量入力しない場合は1とします。

この処理を繰り返します。
すべての出庫検品を終了すると、終了画面を表示します。

検品数： 出庫検品済数
未処理数： 表示商品の残り出庫検品数
残総数： 残り出庫検品総数
M1： 出庫検品処理を取り消して前画面に戻ります。
M2： 未処理数を欠品にして次の商品の出庫検品をします。
F4： 現在の処理状況を表示します。

OK



NG



F4 キー



出庫検品	
ロケーション	000001
商品コード	2060451680006
收容数	1
OK	
検品箱数	4
未処理数	1
残総箱数	8
M1 取消	F4 状況 M2 欠品

出庫検品	
ロケーション	000001
商品コード	2060471980001
收容数	1
NG	
検品箱数	3
未処理数	2
残総箱数	9
M1 取消	F4 状況 M2 欠品

処理状況表示	
ロケーション	000001
商品コード	2060451680006
收容数	1
アシストパック Pro BHT-1500	
検品箱数	3
未処理数	2
残総箱数	9
M1 戻る	前: ▲ 次: ▼

検品数： 出庫検品済みの数
未処理数： 残り出庫検品数

▲： 前のデータを表示します
▼： 次のデータを表示します
M1： 出庫検品処理画面に戻ります



欠品処理画面

出庫検品	
ロケーション	000001
商品コード	2060451680006
収容数	1
未処理数を欠品に しますか？	
検品箱数	3
未処理数	2
残総箱数	9
M 1 戻る	M 2 欠品

M 1 : 検品処理画面に戻ります
M2 : 表示商品の未処理数を欠品にして次の商品の検品処理へ移ります。

出庫検品終了

出庫検品	
伝票 No	00000001
検品処理を 終了しました	
次の検品処理 をしますか？	
M1 終了	M2 次の検品処理

M 1 : 業務メニューに戻ります
M 2 : 次の検品処理

M 2



出庫検品	
伝票区分	00000002
	00000003
	00000004
	00000005
M 1 戻る	M 2 確定

3-3 入力／データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、画面の最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

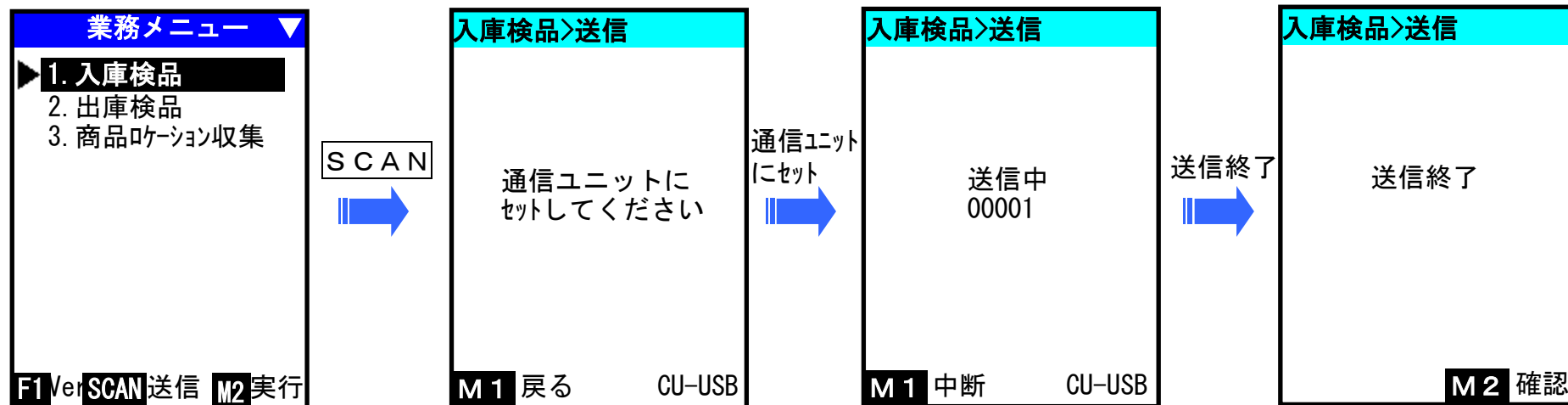
エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	1桁の入力もしないで入力確定した
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力確定した
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（0 詰め表示）と数字（0 サプレス表示）のデータ形式において、バーコードに CODE 3 9, CODE 9 3, CODE 1 2 8 など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した (例: 日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力した場合)
バーコード 桁数エラー	バーコード 桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
バーコード 長オーバー	バーコード 長オーバー	バーコード読取桁数が 3 5 0 0 桁を超えた場合に発生します。
データチェックエラー	データチェックエラー	設定したデータチェックにおいてエラー発生
バーコード データエラー	バーコード データエラー	部分照合モードにおいて、フォーマットが「カンマ区切り」, 「スペース区切り」, 「タブ記号区切り」, 「CR 記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない
マスターファイルがない	マスターファイルがない	文字列表示用マスターファイルまたは照合マスターファイルがない
マスターに未登録です	マスターに未登録です	マスターファイルに検索データがない
バーコード フォーマットエラー	バーコード フォーマットエラー	バーコード のデータフォーマットに固定長以外を指定した場合のフォーマットエラー
商品コード が違います	商品コード が違います	出庫検品おける商品のバーコード読取エラー
検品数オーバー	検品数オーバー	検品における数量オーバー

データ保存設定の場合、上記のエラーが発生した場合はデータを保存しません。



3-4 保存データ送信

業務メニューにおいて送信する保存データの業務を選択して、**SCAN**キーを押すと送信画面を表示します。



未送信の保存データがあると業務メニューに▶を表示します。

3-5 マスターファイル受信

業務メニューにおいて **SF+O** キーを押すとファイル受信状態になります。

